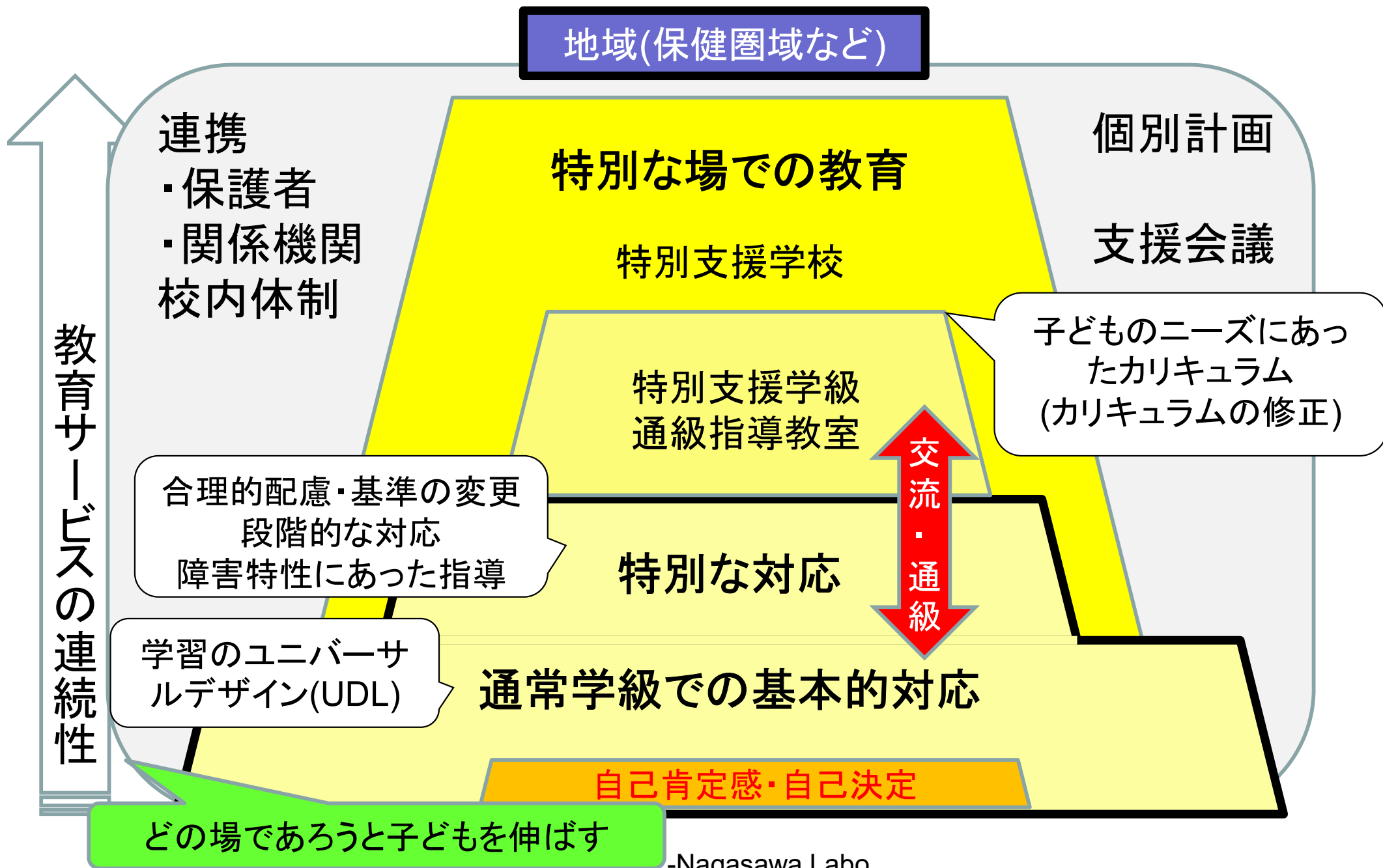


インクルーシブ教育システムの概念図





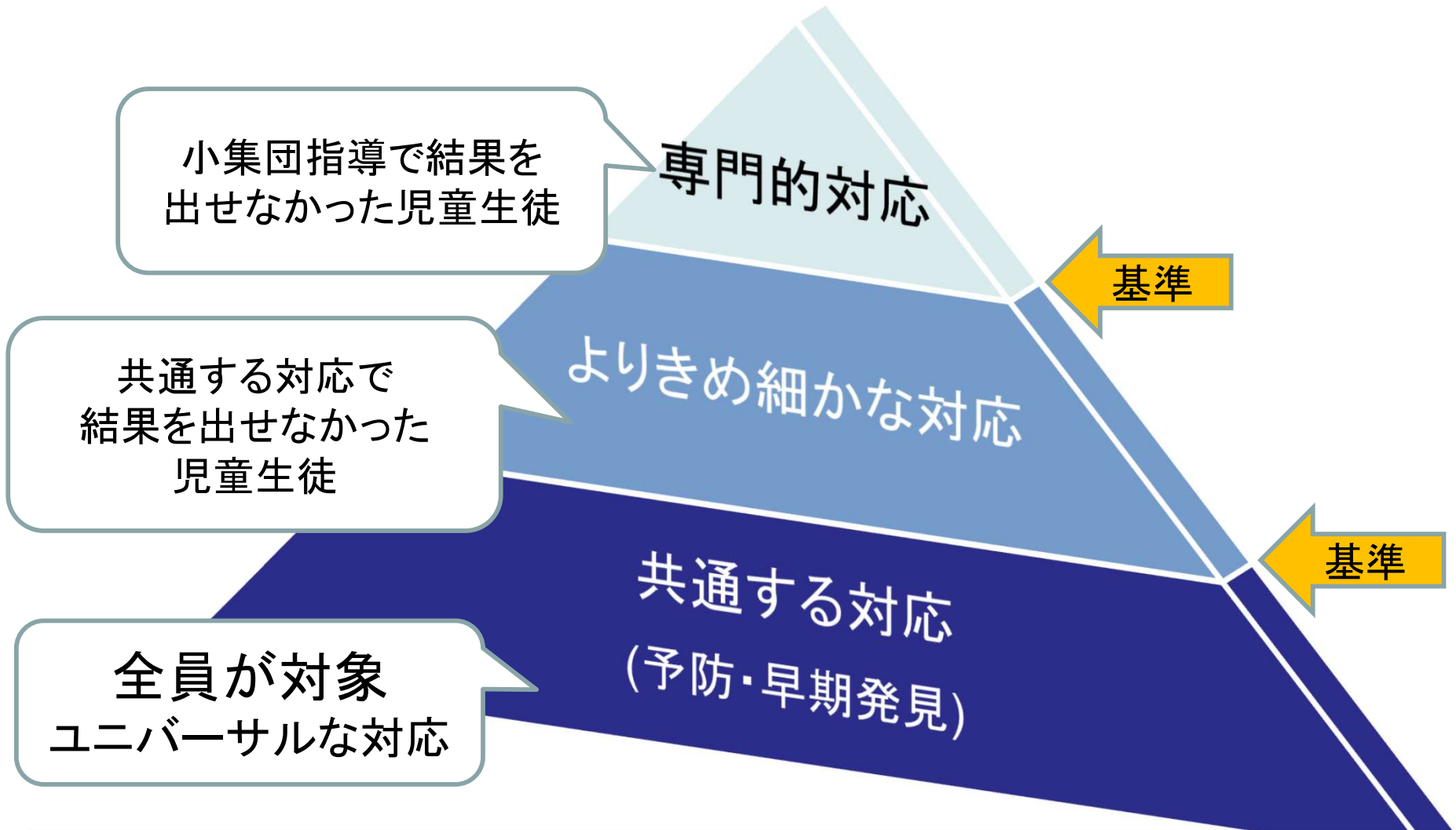
ポイント

- 圏域内ですべての教育を保障する
 - どんな障害でも圏域に包含(inclusion)する
- 障害のある子どもが通常学級から排除されない
- 通常から特別な場への教育サービスが繋がっている(交流・共同学習)
- 教育措置変更が柔軟に行われる
- どの場で学んでも子どもの能力を最大限伸ばす

そこでどんな教育が保障されるか。社会に開かれた教育課程

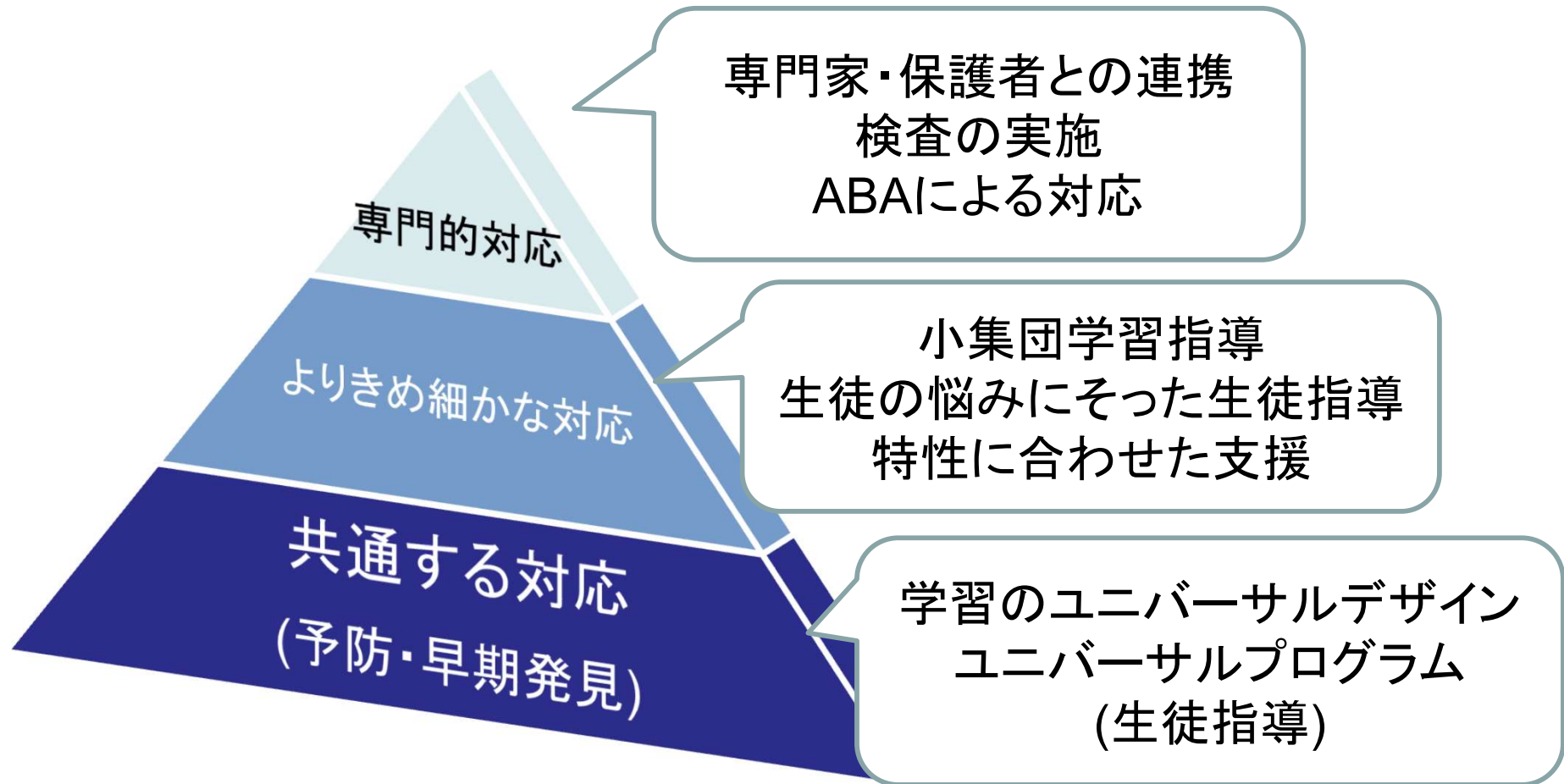


通常の学級で、特別な教育を



三層モデルと基準について、説明責任を果たすこと

三層モデルとは



障害によって区別するのではない。「結果」で判断する
そのためには教育の質を高めること

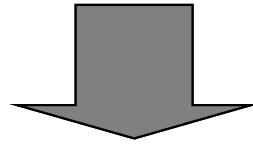


© Can Stock Photo - csp11770046

(1)学習の ユニバーサルデザイン

どの子ども主体的に参加し、
わかりやすく学べる学習条件

多様性への対応:UDL



- Universal Design for Learning(UDL)
 - 障害のある子どもを含む、全ての子どもがわかりやすく、参加できる学び(授業)

多様な学習者を対象に、学習環境のバリアを減らすこと
多様な教育方法(提示・意思表示・参加)の使用を認めること
教科中心のカリキュラムで教えること

すべての子が対象。実施している授業の見直し(目の前の子の意見)
様々な方法や工夫を認める柔軟性

学びの過程とUDL: 多様性の保障

原則1

- 課題理解と提示の工夫

原則2

- 考えの表現と課題解決

原則3

- 学びの自己管理と意欲

[チェックリスト\(研究室提供\)](#)

1. 課題理解と提示の工夫



- 学びに適した環境設定

準備、スケジュール表、前時・本時の学習内容確認

- 学習理解のための基本的な支援

学ぶ内容の明示、視覚化・ICTの活用、わかりやすい説明

- 教科の特性に合わせた提示の工夫

重要語句や公式の説明の工夫、提示時間の確保

- 授業内容理解の基本的支援

板書の工夫、指示説明の工夫、説明と書く時間を別に確保

2. 考えの表現と課題解決

- 子どもの主体的な意思表現を促進する支援

答えやすい工夫・雰囲気、考える時間の確保、ことば以外の手段

- 課題解決のための支援

問題の解き方支援と指導(育成):教材・ICT・図式化・マニュアル

机間巡視、チームティーチング、ICT(ロイロノートなど)

- 他者の意見を理解するための支援

提案意見の提示の工夫、ペア学習、共同で解決



3. 学びの自己管理と意欲

- 学習の意欲を高める工夫

正答や正答でない結果への対応の工夫、達成感のある課題

- 学習活動と学習内容の自己管理支援

学習活動と内容の自己評価(授業モデル)、セルフモニタリング、小テスト

- 次の学びへつなげる支援

単元全体と本時の学びとの関係の理解

課題の理解 → 学習参加 → 課題解決(次の学びへ)

導入

授業のゴールを示す

自己評価を取り入れた授業モデル

- 学習活動の明確化
- 学習内容の明確化

チェックリスト

展開

UDL 3原則

1. 課題理解と提示の工夫
2. 考えの表現と課題解決
3. 学びの自己管理と次の学びへの意欲

- 学習活動の自己評価
- 学習内容の自己評価

終結

チェックリスト

机間巡視
ノート点検
小テスト

がくしゅうのめあてカード

• わたしがすること

1. ノートにかく

2. けいさんする

せんせいのてんけん

• おぼえること

1. $3+5$ のけいさん

2. ぶんしょうだい

テストの答え

自己評価カード

• 活動内容

1. 練習問題

2. 話し合い・発表

教師の点検

• 授業の目標

1. $3x - 1 = x + 5$

2. 説明できる

テストの答え

手続き(まとめ)

1. 導入
 - 本時の学習内容と学習活動を提示
 - 自己評価表を配付
2. 展開
 - 3原則を取り入れた授業
 - ルールに従っていること、内容理解等を適宜評価
3. 終結
 - 自己評価(児童生徒)

教師による評価、記録

机間巡視・ノート点検
小テスト



ロイロノート

4. オプション
 - 小テスト、補助資料、補助課題
- 必要に応じて追加する

授業モデルの成果

- 成績上位群: 学力は変わらず
- 成績中位群: 学力の大幅な向上
- 成績下位群: 学力向上せず
 - 問題行動の減少
 - 課題に取り組む姿勢が多く見られるようになる

さらなる学習支援(小集団・個別)と行動支援(カウンセリングなど)



UDLの条件

- 全員を等しく扱い、障害を区別しない
- 多様な教育方法: 3原則
 - わかりやすい、参加しやすい、一人で学べる
- 必要とされる客観的な到達目標の設定
 - 達成できない子へ、特別な指導を提供
 - 指導前後で全員を対象に評価、指導の有効性を確かめる

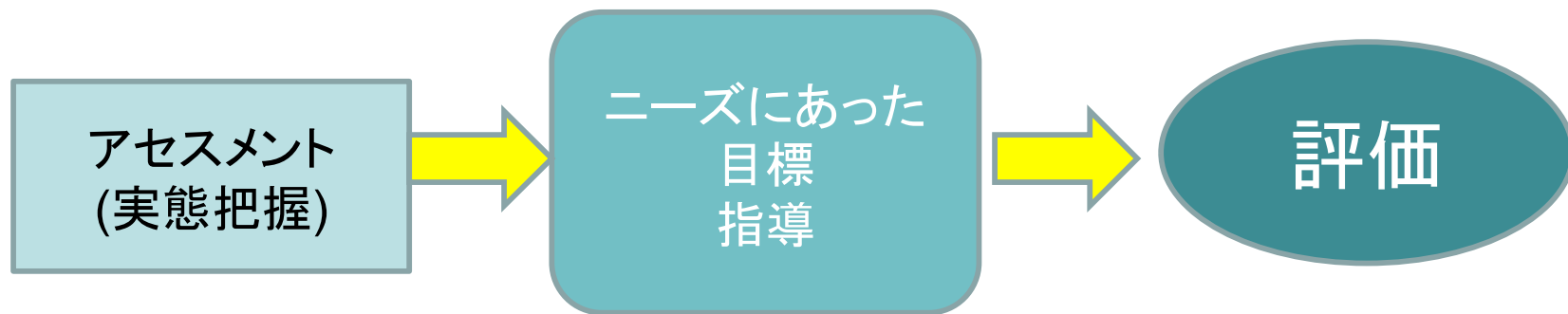
UDL: 基礎学力の保障

UDLだけで、すべての子どもの学力保障はできない

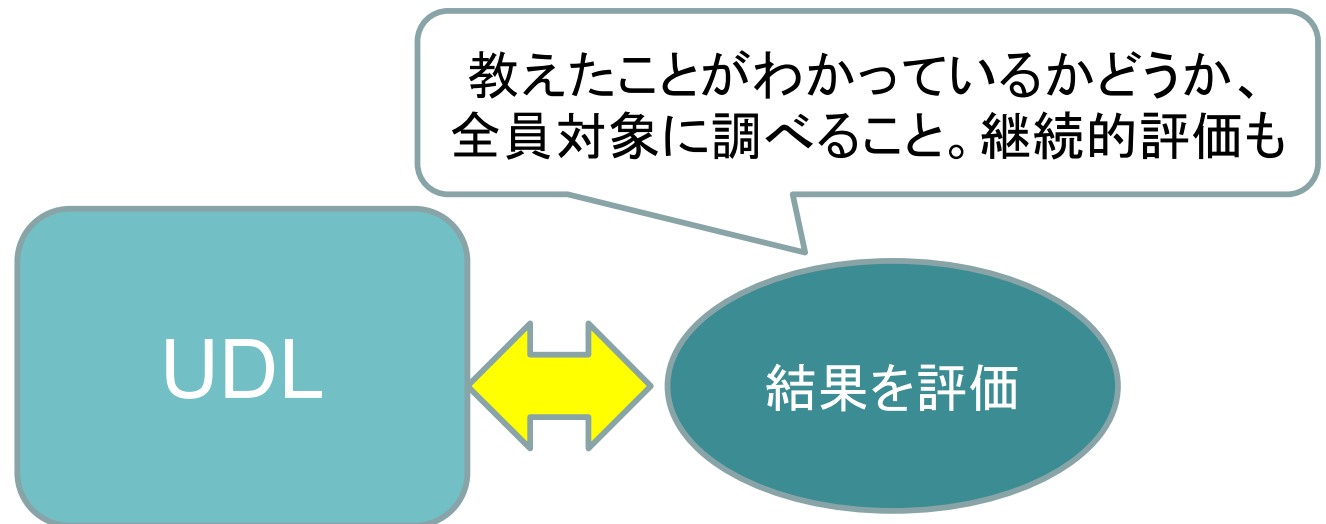
→ 段階的に特別な対応を

特別支援教育とUDL

- 特別な指導



- UDL



まずUDLの実施。結果を見て次の指導を
授業は指導の場であり、アセスメントの機会でもある



大事なこと

- インクルーシブ教育システムでは、結果で特別な指導の必要性を判断

授業は指導の場であり、評価(実態把握)の場でもある

- 「できない」ことが指導力が原因ではないことが前提

教育の質の保証 = UDL

- 多様な方法の採用と子どもの主体的学びの育成、保障 (文献)

子どもの実態(結果)にあわせ、指導法や支援、教材を変える

多様性への対応

統一ルール

多様性の尊重
(障害、疾患、LGBT、人種など)



UDL



三層モデル



対応の柔軟性



グローバルスタンダード

学びと学習のユニバーサルデザインの比較

| | 法的根拠なし | 法的根拠あり |
|----------|---------------------------|------------------------------|
| | 学びのユニバーサルデザイン | 学習のユニバーサルデザイン |
| 対象 | 障害のない子・発達障害 (の可能性のある子) | 障害のない子・障害のある 子(すべての障害種) |
| 教育の場 | 通常の学級中心、特別支 援学級・特別支援学校 | 通常の学級 |
| 内容・方法 | 主に教師サイドの提示方 法の工夫が多い | 提示方法、表現方法の自 己解決などの3要素 |
| 学力向上の有効性 | データが示されているわけ ではない | データとして示されている (おおむね80%に有効) |
| 段階的な対応 | 設けられていない | 基準に到達できない子へ の3段階の対応 |
| 教育理念 | 特別支援教育 | インクルーシブ教育 |

インクルーシブ教育システム: 基礎的環境整備